

今回の東大見学会で私は、様々な話を聞くことができ、とてもいい体験ができました。世界を股にかけて、仕事をしている人の話はどれも貴重なものでこれからの自分に大切なものだと感じています。

1 日目、私たちはディレクトフォースで笹川平和財団の皆さんとグループごとに対話しました。財団というものに緊張していた僕でしたがその役員の人たちが明るく優しい口調で話してくださったので、私もその場で思いついた質問をいくつかすることができました。その中でも、特に吉田文一さんの話と大久保郁子さん、金子祥三さんの話が心に響きました。

まず、吉田さんの話です。吉田さんは日本の国について話をしてくださいました。吉田さんは日本は寛容文化だとおっしゃっていました。吉田さんによると今数多くある問題の解決にその文化を持つ日本が必要になるそうです。また、世界有数の大国の日本に生まれたのもっと自信を日本人は持つべきだともおっしゃっていました。確かに欧米の人たちに無意識に劣等感を抱いてしまうときがあるかもしれません。世界を渡るときに胸をはっていないといけないなと思いました。

次に大久保さんの話についてです。大久保さんは、最近、フィリピン残留孤児の国籍回復を支援する仕事をしているそうです。そこで同じグループの人が国籍を回復することでその人にとって何か利点があるのかという質問をしました。それに対して大久保さんは、「最初は自分も国籍を回復することの利点は分からなかった。でも、実際話を聞いて日本人としてお墓に入りたいなど現地の人の様々な思い、感情があって必ずしも利害で動いているわけではないと分かった。」とおっしゃっていました。このことから私は、はたからみて『なんで、そんなこと？』と思うようなことも本人の立場からみたらすごい大事なことだったりするのだと思いました。人の目線に立つということはすごい大事なことだと改めて考えさせられました。

最後に金子さんの話です。金子さんは、海外での商売の発想の仕方について私たちに話してくれました。大事なのは実際に現地に行くことだそうです。日本にいるだけでは海外に向けた商売の発想ができないそうです。外国に行ってみるとその国にはない日本の良さが分かるそうです。例えば中国では今の日本のように介護技術が発達してなくて、中国は日本のそれをほしがっているそうです。そこから、何を商売にしていけばいいのか分かります。商売の話はまだ、僕の身近にはなかったのでも面白かったです。また、金子さんの話の中にも買う人の目線に立つことの重要性についての話がありました。それだけ、相手の目線に立つことは仕事においても大事なことなのだと思います。

その後、私たちは企業訪問で東京医科歯科大学の森尾教授を訪問しました。森尾教授は、小児科の先生でありながら、より多くの子どもを救うために再生医療の研究を進めている素晴らしい人です。そのようなお忙しい人とお話しができたのはとても貴重でした。

森尾教授のことを訪問前に調べていると、教授はより優良な微生物検出系キットを開発していることが分かりました。私は、そのことで医者として工学系の知識が必要なのか疑問を抱いていました。教授によると化学の知識が必要なきがかり、基本的には生物の知識で大丈夫だそうです。工学系の専門的な知識が必要となる場合はその分野の人と連携します。他に医者に必要なのは、数学力です。大事なものは、好きであることだそうです。私は数学に今以上に力をいれなければと思いました。

教授は留学についても話をしてくれました。教授はハーバード大学に留学しました。その研究所の人はプロのサッカー選手、マジックが得意など何かしら医学とは別に自分の特技を持っていたとおっしゃっていました。自分も何か特技を作ってそれを強みにしたいと思いました。また、教授は留学をすると中立的な立場に立て、視野を変えられるともおっしゃっていました。留学に消極的な考えだった僕でしたが、先生の話聞いて留学してみたいと思うようになりました。

先生の話聞いて特に大事だと思ったものはコミュニケーション能力と根本的な理解の積み重ねです。

コミュニケーションは医者として絶対になくてはならないものだと改めて感じました。森尾教授は患者さんによって話し方を変えているそうです。例えば、癌細胞をたたくのに、兵糧攻めにするように専門的知識

のない僕たちに分かりやすく癌の治療について話してくれました。患者さんのより素直な気持ちを聞きだすには、コミュニケーション能力はなくてはならないことだと思います。また、研究を進めるにあたって前文でも書いたように、他の分野や研究所の人の協力が不可欠となります。その協力を得るときに、自分の研究の価値を相手に伝えなければなりません。そのときに、相手に伝える能力が大事になります。森尾教授との対話で驚いたことに名前を覚えるのが早いということがありました。これも、コミュニケーションにおいて大事なことだと思います。コミュニケーション能力は、高校生活でも鍛えられるので学校での仲間との交流の時間を大事にしたいと思いました。

先生は、根本的な理解の積み重ねは優秀さに繋がるとおっしゃっていました。ある分野の研究を五年間以上続けたらその分野での知識で叶う人はいなくなるとも言っておられました。根本的な理解の積み重ねは医者になるためにも、なった後にも必要となります。なにごと基礎から始まります。それを、いかにしっかりと正確に理解して積み重ねるかがその応用に繋がります。普段の学習でもそこを意識してやりたいと思いました。

森尾教授を訪ねた後私たちは細胞の研究所の1つを見学できました。本当にラッキーでした。ドアは1つ以上開かないようになっていたり抗菌対策の徹底ぶりがよく分かりました。研究室の中にいると普段実験している様子が想像できて楽しかったです。本当に貴重な体験ができたと思っています。

この日の夜、夕食を食べた後二高のOBOGで東大、一橋大の先輩たちのお話を聞きました。先輩たちの話はどれもインパクトがありました。先輩たちは理転や文転をした人が多くて、人生その道1つとは限らず何が起こるか分からないものだと感じました。また、OB、OGの人たちの多くが自分に必要な勉強は何か考えて取捨選択をしていました。私自身、授業中もっと有効に使える時間があると思うので参考になりました。授業のすべてに集中できるようにしたいです。先輩たちの話の中では新聞を毎日読むべきだというものがありました。センター試験をこれだけで7割とれると言っていたのが衝撃的でした。それに、加えてその先輩はNewtonという雑誌も読んでいたそうです。これを読んでおくと理系の授業の飲み込みが早くなり、簡単な予習にもなるとおっしゃっていました。メディアテークが僕の家に近いので借りてよんでみたいと思いました。

この1日はとても密度が濃くて学べるが多かったです。あっという間に感じられました。自分は医者になりたいと思っていたのですが、いまいちパツとしないところがありました。しかし、森尾教授の話聞いてより強い思いに変わりました。また、留学をしたいと思えるようになりました。このようなことから、この東大見学会に来て良かったと思っています。この東大見学会での体験は今後の自分に大きく関わることです。この体験を忘れないようにして大事に普段、過ごしていきたいと思っています。私たちに様々な話をしてくださったみなさんや、このような機会を設けてくださった先生方に感謝しております。